

# 平成25年度 学校保健概要調査

## 1 発育の状況

年齢別身長・体重・座高の平均値（全国と岡山県との比較）

○：全国平均より上 □：全国平均と同じ 無印：全国平均より下

区 分			身 長 c m		体 重 k g		座 高 c m		
			全 国	県	全 国	県	全 国	県	
男 子	幼稚園	5歳	110.4	110.0	18.9	18.5	62.0	61.7	
		6歳	116.6	116.3	21.3	21.1	64.8	64.6	
	小学校	7歳	122.4	121.9	23.9	23.7	67.6	67.2	
		8歳	128.2	128.1	27.1	26.7	70.2	70.3	
		9歳	133.6	133.1	30.4	30.0	72.6	72.4	
		10歳	139.0	138.7	34.3	34.1	75.0	74.7	
		11歳	145.0	144.5	38.3	38.0	77.6	77.5	
	中学校	12歳	152.3	151.6	43.9	43.0	81.2	80.8	
		13歳	159.5	158.9	48.8	48.6	84.8	84.7	
		14歳	165.0	164.2	54.0	53.8	88.1	87.7	
	高等学校	15歳	168.3	167.3	58.9	58.0	90.3	89.8	
		16歳	169.9	168.8	61.0	59.6	91.4	91.2	
		17歳	170.7	169.8	62.8	62.2	92.0	91.8	
	女 子	幼稚園	5歳	109.6	108.9	18.6	18.1	61.5	61.1
			6歳	115.6	115.4	20.9	20.9	64.4	64.4
		小学校	7歳	121.6	121.2	23.5	23.5	67.3	67.1
			8歳	127.3	127.1	26.4	26.1	69.9	69.9
9歳			133.6	133.1	30.0	29.4	72.8	72.6	
10歳			140.1	139.6	34.0	33.3	75.8	75.6	
11歳			146.8	145.9	39.0	38.4	79.3	79.0	
中学校		12歳	151.8	151.7	43.7	43.4	82.1	82.0	
		13歳	154.8	154.4	47.1	47.0	83.8	83.7	
		14歳	156.5	156.3	49.9	50.0	84.9	85.0	
高等学校		15歳	157.0	156.7	51.4	51.2	85.5	85.5	
		16歳	157.6	156.8	52.5	52.0	85.8	85.6	
		17歳	158.0	157.7	52.9	53.6	85.9	86.0	

(注) 年齢は、平成25年4月1日現在の満年齢である。

○全国と比較すると、男子の8歳の座高において全国平均を上回っている。女子においては、14歳と17歳の体重・座高において全国を上回っている。

上記の岡山県数値は、平成25年度学校保健統計調査（文部科学省の抽出調査）の還元資料によるものである。

○ 平成25年度 学校保健統計調査対象校

（学校教育法第1条に定める幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び中等教育学校のうち文部科学大臣が指定）

岡山県内学校(園) 1,011校(園)中 165校(園)抽出

岡山県在学者 225,447人中 発育状態調査 13,915人 (6.2%)抽出

○ 調査期間

平成25年4月から6月

## 2 学校種別疾病異常の状況

(注) 被患率とは、定期健康診断において医師等により、疾病異常と診断された者の割合

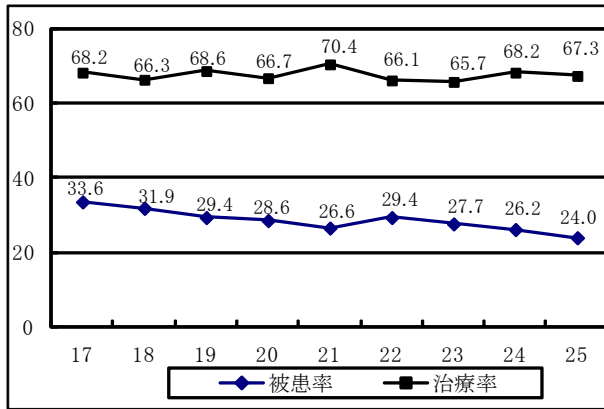
被患率		学校種	幼稚園	%	小学校	%	中学校	%	高等学校	%						
20%以上30%未満			むし歯	24.0	むし歯	26.4	裸眼視力1.0未満	23.2	矯正視力1.0未満	23.6						
10%以上20%未満			裸眼視力1.0未満	15.1	裸眼視力1.0未満	19.9	矯正視力1.0未満	19.5	むし歯	19.9						
			鼻咽頭疾患	12.6	鼻咽頭疾患	17.3	むし歯	17.5	裸眼視力1.0未満	19.1						
						鼻咽頭疾患	13.1									
1%以上10%未満	8~10%					肥満傾向	8.3	鼻咽頭疾患	9.5							
	6~8%	耳疾患	7.1	ぜん息	7.8											
				肥満傾向	6.8											
				耳疾患	6.5											
				その他の眼疾患	6.3											
				その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	6.2											
矯正視力1.0未満	6.2															
4~6%	その他の眼疾患	4.7			ぜん息	5.4	歯周疾患	5.5								
2~4%	ぜん息	3.4	歯列・咬合・顎関節の異常	2.7	その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	3.5	瘦身傾向	2.9								
									その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	2.4	歯周疾患	2.2	瘦身傾向	3.3	歯列・咬合・顎関節の異常	2.8
									皮膚疾患	2.1	歯列・咬合・顎関節の異常	2.6	耳疾患	1.9		
1~2%	皮膚疾患	1.8	心臓の疾患	1.5	皮膚疾患	1.5	皮膚疾患	1.3								
									聴力異常	1.0	瘦身傾向	1.4	心臓の疾患	1.4	心臓の疾患	1.2
1%未満	0.5~1%	肥満傾向	0.9	せき柱側わん	0.5	腎臓疾患	0.6	聴力異常	0.9							
		矯正視力1.0未満	0.8			せき柱側わん	0.6	その他の歯の疾患及び口腔の疾病異常	0.9							
0.1~0.5%	0.1~0.5%	歯周疾患	0.4	腎臓疾患	0.4	貧血	0.2	貧血	0.2							
		心臓の疾患	0.3	感染性眼疾患	0.1	感染性眼疾患	0.1	せき柱側わん	0.2							
		感染性眼疾患	0.3	胸郭異常	0.1	胸郭異常	0.1	胸郭異常	0.1							
		瘦身傾向	0.1	ぎょう虫	0.1			感染性眼疾患	0.1							
		せき柱側わん	0.1													
		胸郭異常	0.1													
0.1%未満	0.1%未満	ぎょう虫		貧血		栄養不良		栄養不良								
		貧血		栄養不良												
		栄養不良														
		腎臓疾患														

○疾病異常を被患率別にみると、幼稚園、小学校においては「むし歯」が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」「鼻咽頭疾患」の順となっている。中学校においては、「裸眼視力1.0未満」、高等学校においては、「矯正視力1.0未満」がそれぞれ最も高く、次いで中学校においては「矯正視力1.0未満」「むし歯」、高等学校においては「むし歯」「裸眼視力1.0未満」がそれぞれ高くなっている。

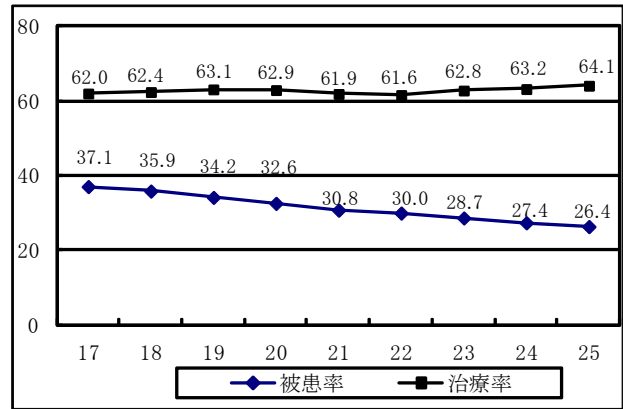
### 3 むし歯の状況

①治療していないむし歯（乳歯・永久歯）のある者の割合及び治療率の推移

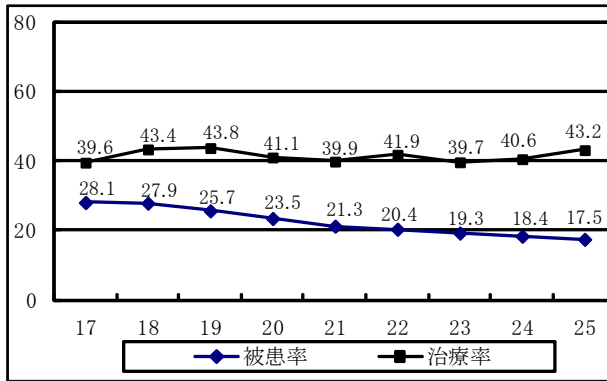
(%) 幼稚園



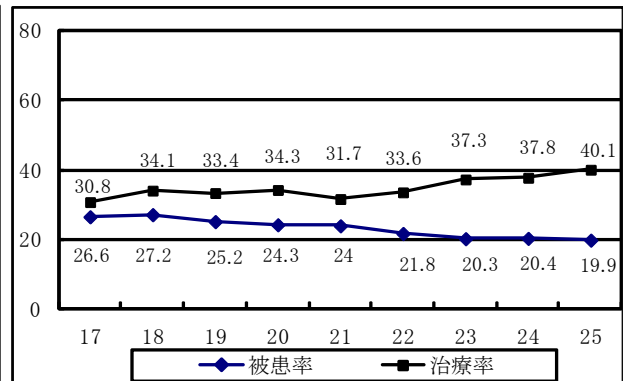
(%) 小学校



(%) 中学校



(%) 高等学校

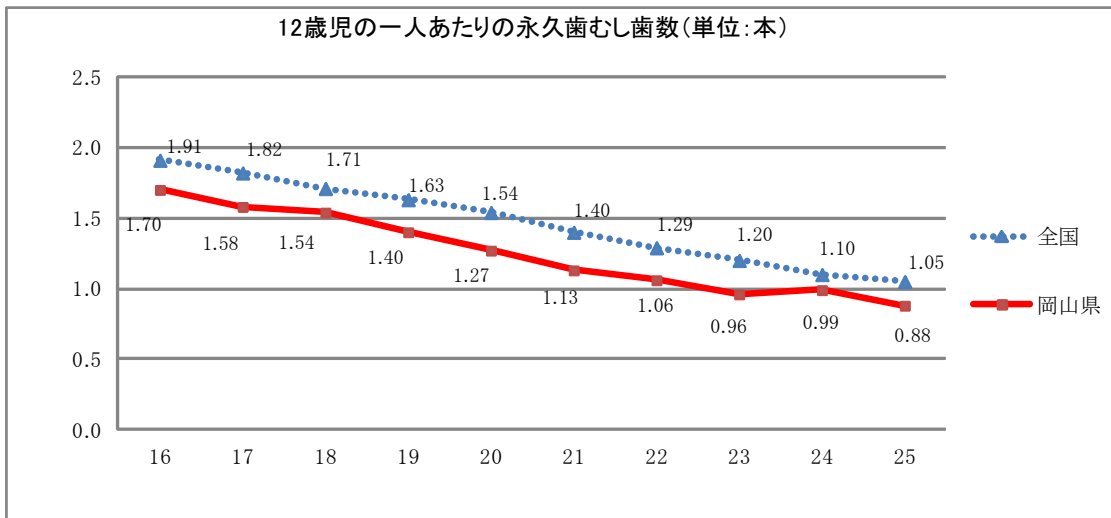


(注) 被患率とは、定期の歯科検診時における未処置歯保有者の割合。

(注) 治療率とは、定期の歯科検診後、むし歯の治療勧告を受けた者が、その年度の12月1日までに治療を受けた割合。

②12歳児（中学1年生）の一人あたりの永久歯むし歯数（DMF歯数）の推移

※DMFとは・・・ D（未処置歯）  
M（むし歯による喪失歯）  
F（処置歯）

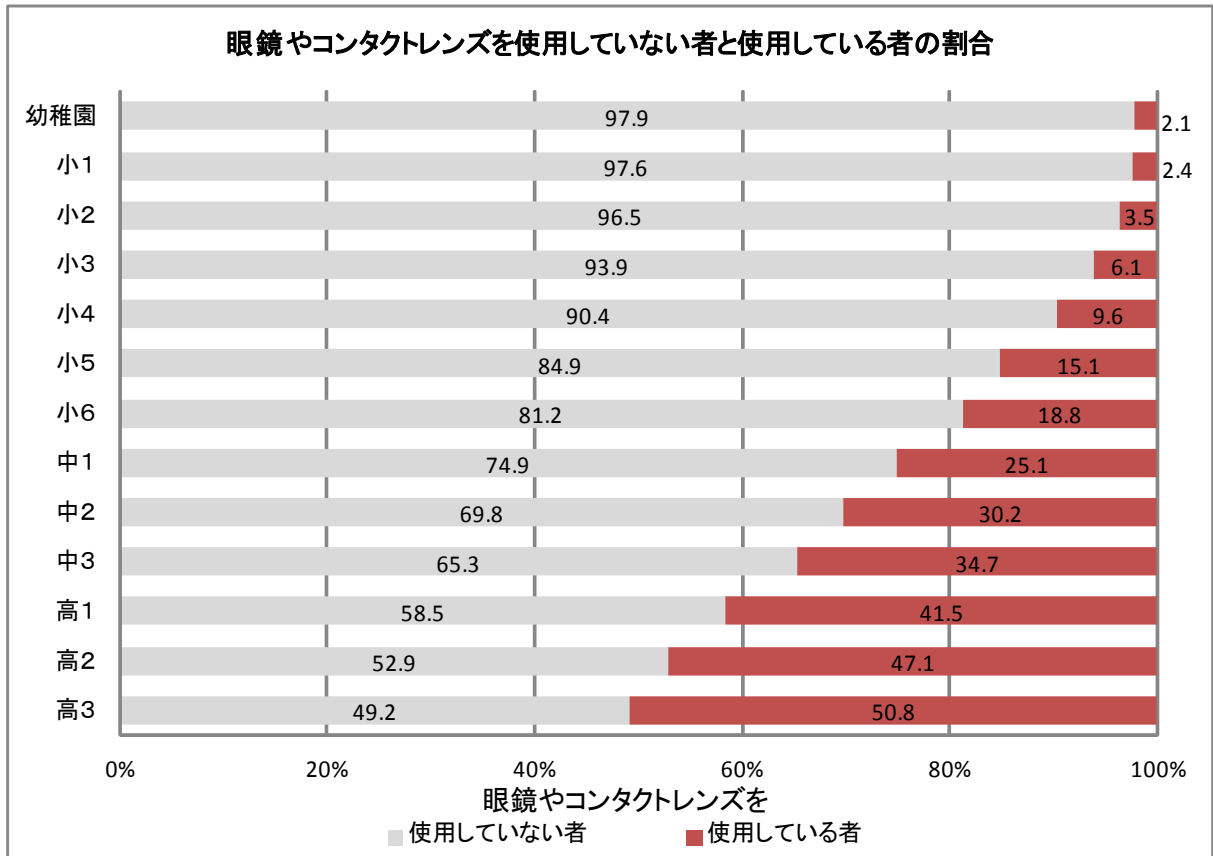


(注) 全国の数値は文部科学省の平成25年度学校保健統計調査結果から

○むし歯の被患率は、すべての校種において低下傾向、むし歯の治療率は幼稚園を除くすべての学校種別において増加傾向にある。12歳児の永久歯むし歯数（DMF歯数）は、0.9本を下回った。

## 4 視力の状況

(眼鏡やコンタクトレンズを使用していない者と使用している者の割合)

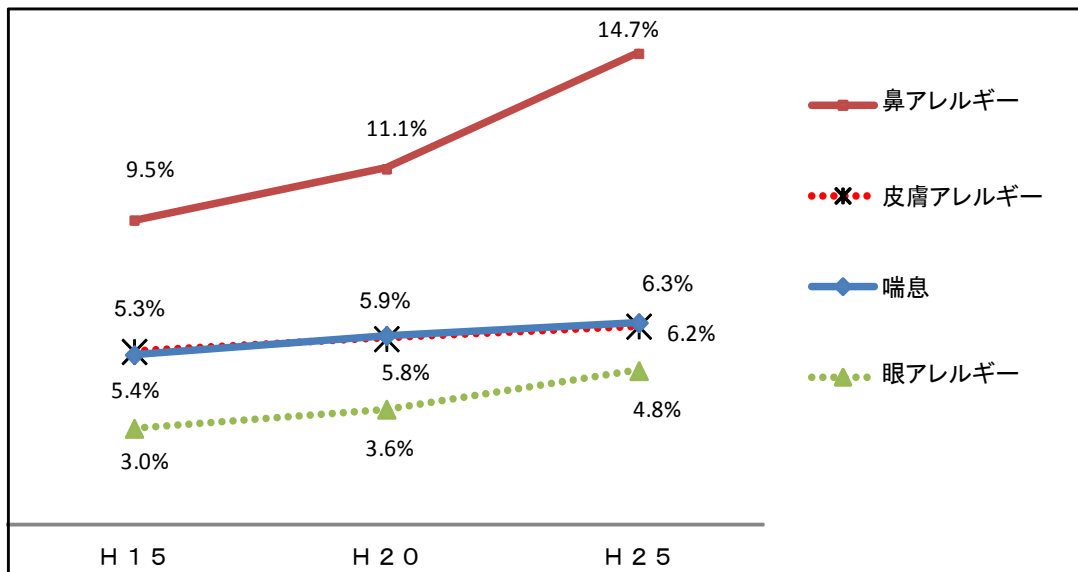


○学年が上がるにつれ、眼鏡またはコンタクトレンズを使用する児童生徒が増加する。

○高等学校3年生になると、半数以上の生徒が、眼鏡又はコンタクトレンズを使用している。

## 5 アレルギー疾患・喘息の状況

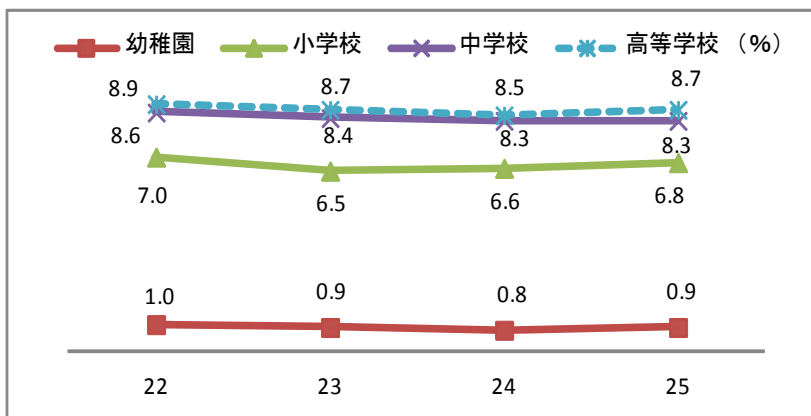
次の数値は、校医の診断及び保護者の保健調査票等から、学校が把握したアレルギー疾患を持つ児童生徒の割合である。



○10年前と比較すると、アレルギー疾患を持つ児童生徒が増加し、特に鼻アレルギーはかなり増加している。また鼻・眼アレルギーは昨年度より増加しており、その他のアレルギーも昨年と同水準である。

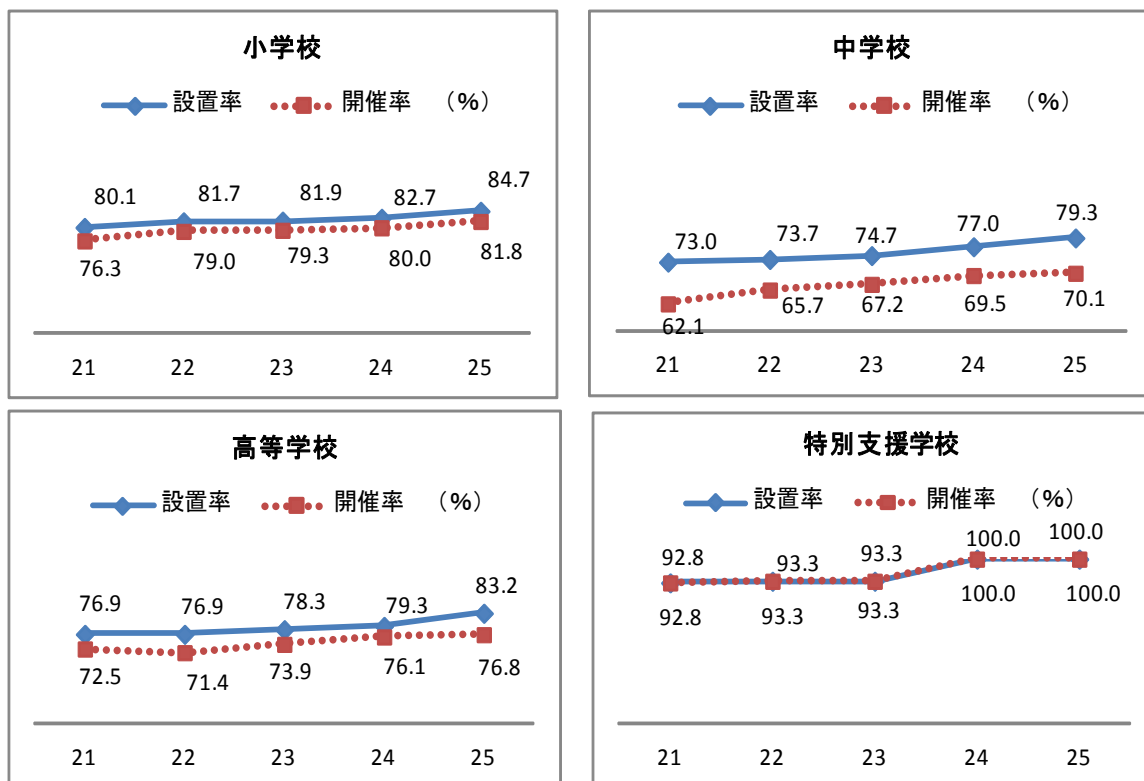
## 6 肥満の状況

肥満については、「性別・年齢別・身長別標準体重」から肥満度を算出し、肥満度20%以上の者を肥満傾向児としている。



○平成22年度から、中学校においては、肥満の発現率が減少傾向である。

## 7 学校保健委員会の設置・開催状況



○すべての学校種別において、設置率と開催率が増加傾向にある。

特別支援学校においては、設置率・開催率ともに100%である。

### ◇学校保健委員会とは

校長・養護教諭等教職員、保護者代表・生徒代表・学校医等地域関係者等を委員とし、各学校における健康に関する課題を協議し、子どもたちの健康づくりを推進するための組織である。主に保健主事等が運営にあたる。

第6次岡山県保健医療計画では、学校保健委員会の設置率を平成27年度までに、小学校90%、中学校・高等学校85%とすることを目標としている。